

資料 2：就労（準備）支援事業

平成 22 年度就労支援プログラム実施報告書

特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1 実施状況及び件数

連絡調整（電話などによる情報交換）			クラブハウス	レディース
	職業センター	17	1	
	ハローワーク	24	5	
	職場	0	2	
	医療機関他	1	5	
同行支援				
	職業センター	10	0	
	ハローワーク	15	8	
	医療機関他	2	3	
職場訪問支援		0	1	
本人支援（電話・面談）		8	10	
既就労者（前年度以前の就労者）の継続支援				
	相談	10	0	
家族との連絡調整		3	5	
支援者会議		12	3	

2 支援事例の支援計画の作成と評価

(1) クラブハウス

作成実績	就労準備支援（新規就労）対象者 9 名、就労継続支援者 8 名に対し、支援計画を作成
評価内容	新規就労 1 名を含む 9 名に就労継続支援、8 名に引き続き就労準備支援、短期就労者 1 名に体験をフィードバック

(2) レディース

作成実績	就労準備支援（新規就労）対象者 7 名
評価内容	新規就労 3 名に就労継続支援

3 支援調整・会議の開催

(1) クラブハウス

開催日	開催場所	参加者数	内容
22.6.11	北海道大学医学部付属病院	6	S.R.氏検査入院結果の報告
22.7.23	障害者職業センター	3	S.R.氏職業相談
22.9.1	札幌東公共職業安定所	3	H.H.氏求職に関する打ち合わせ
22.9.6	札幌東公共職業安定所	3	O.M.氏求職に関する打ち合わせ
22.9.9	障害者職業センター	3	S.R.氏職業相談
22.9.16	障害者職業センター	3	H.H.氏職業適性検査
22.9.17	札幌東公共職業安定所	5	I.H.氏求職に関する打ち合わせ
22.11.2	障害者職業センター	3	I.H.氏職業相談
22.11.4	障害者職業センター	3	H.H.氏職業適性検査結果報告
22.11.12	障害者職業センター	3	H.H.氏職業適性検査結果説明、職業準備訓練経過報告
22.11.25	障害者職業センター	3	H.H.氏職業準備訓練に関する打ち合わせ
23.1.6	障害者職業センター	3	S.T.氏職業ガイダンス
23.1.11	障害者職業センター	4	I.H.氏求職に関する打ち合わせ

(2) レディース

開催日時	開催場所	参加者数	内容
H22.7.14	N 社会議室	7	M.C.氏の職場内支援についての計画
H22.8.13	ハローワーク札幌北	5	M.C.氏退職についての打ち合わせ
H22.12.3	ハローワーク札幌	5	I.I.氏求職活動のため打ち合わせ

4 関係機関相互の情報交換および状況の把握（上記会議以外、主な機関との実施状況）

実施日	関係機関名	支援状況
	ハローワーク（札幌、北、東）	本人の生活状況についてなどの情報交換
	障害者職業センター	就職活動に向けての状況確認（センターの利用が適切な段階かどうか）

5 支援ネットワークの構築

機関名
障害者職業センター
ハローワーク札幌
ハローワーク札幌東
ハローワーク札幌北
桑園病院
北海道大学病院

6 各地域相談担当者やサービス提供事業者への支援状況

	関係機関名	支援状況
H22.7.26	富良野保健所 富良野市内、周辺の福祉事業所	高次脳機能障害者の就労についての講義
H22.11.16	北海道大学医学部作業療法学科	作業療法学科の学生に対して、職業周辺作業療法の講義を行った

7 その他

既就労者に対し、電話相談、余暇支援（クラブハウス、レディースの行事に勧誘）を行う
クラブハウスにおいて、月1回の就職セミナーを行う

平成 22 年度北海道高次脳機能障害支援事業実施報告書

「就学（準備）支援」

特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1. 支援プログラムの実施状況

(1) 支援の対象者

	年齢	現在	性別	受傷原因	受傷後経過期間
1	18才	養護学校3年	男	脳外傷	8年
2	19才	大1	男	脳外傷	3年
3	14才	中2	男	脳外傷	7年
4	15才	中3	女	脳外傷	8年
5	8才	小2	男	脳外傷	3年
6	16才	高1	男	脳外傷	5年
7	15才	中3	女	脳腫瘍	14年
8	12才	中1	女	脳血管障害	3年
9	11才	小5	女	インフルエンザ脳症	9年
10	11才	小5	男	髄膜炎	9年
11	10才	小4	女	低酸素脳症	9年
12	13才	中1	女	低酸素脳症	12年
13	19才	高3	男	多発性硬化症	9年
14	10才	小4	男	脳外傷	2年
15	19才	職業訓練校	男	脳外傷	3年
16	14才	中2	男	脳外傷	13年
17	19才	高3休学中	男	脳外傷	2年
18	14才	中3	男	脳外傷	1年
19	14才	中2	男	インフルエンザ脳症	1年
20	15才	中3	男	脳内出血	4年
21	17才	高2	男	脳外傷	6年
22	18才	高3	男	脳外傷	2年
23	12才	中1	男	脳外傷	3年
24	12才	中1	男	出生時硬膜下血腫	13年

*前年度から引き続き支援をしている方 19名

*平成22年度新たに支援をした方 5名

(2) 相談件数 (2010年4月～12月)

	種別	回数	
相談・支援方法	来所	6	
	電話	90	
	メール・郵便	48	
	専門機関同行	2	
支援内容	学校・進路・児童会館など	49	
	対応について	5	
	親の会(家族会)について	10	
	医療について	22	
	専門機関との連絡	42	
	手帳・制度など	12	
	補償・司法について	5	
	その他	16	資料、支援機関など

2 支援計画の作成と評価

作成実績	復学支援で3名の支援計画を作成
評価内容	<p>・事故後、復学するもトラブルや勉強についていけないなどから不登校になった事例について。復学に向けての支援計画を作成。保健所、医療機関、特別支援教育の相談機関と連携をとりながら、転入校での復学を支援。様々なトラブルを抱えながら通学するも、家庭の事情による転居で休学中。</p>
	<p>・受傷後、復学するも普通学校での勉強の難しさかかえた事例について。医療機関を紹介し（入院、診断を受ける）特別支援の相談機関と連携をとりながら、支援を受けての復学への準備をすすめる。在籍校に特別支援学級が設置され、10月より復学。</p>
	<p>・特別支援学級に進学後、不登校から引きこもりになった事例について。日中支援の制度を紹介するとともに、医療機関と連携をとりながら、引きこもりから復学に向けての支援計画を作成。現在入院、リハビリなどを通じ生活リズムを作っている。</p>

3 支援調整・会議の開催

開催日時	開催場所	参加者数	内 容
5月7日 16:00~17:30	南富良野町保健福祉センター	19人	高校1年生の当事者の支援に関わる10機関(町福祉課、町社会福祉協議会、道保健所、高校、中学校、医療、相談支援センター、生活支援センター、コロポックル、当事者の保護者)が参集。近況の報告と今後の支援について話し合う。
8月12日	北大リハビリテーション科	6人	退院時の検査結果説明に同席。今後の学習、支援について。
11月5日 14:30~15:30	札幌市立病院 静療院	10人	養護学校(3年生)の当事者の支援に関わる6機関(養護学校、医療、相談支援所、介護事業所、コロポックル、当事者の保護者)が参集。卒業後の通所先にと今後の支援について。
毎週火曜日	コロポックル	2~3人	新規相談、支援者の現状と支援について打合せ

4 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

実施日時	関係機関名	情報交換内容等
7月6日 7月15日 7月28日 7月29日	紋別保健所	当事者支援を依頼。学校、支援者会議、医療機関について
9月24日 9月30日 10月4日 10月6日 10月12日	旭川市障害福祉課	自立支援受給者証の取得について
9月30日 10月5日	旭川市障害者総合相談支援センター	当事者、家族の体調と復学の支援について
10月12日	旭川市忠和中学校	支援者会議について
8月9日	北大リハビリテーション科	退院時の診断、今後の支援について
9月9日 9月14日 9月16日	苫小牧保健所	当事者、家族の体調と現状確認について
9月30日	北海道特別支援教育センター	特別支援学級の設置と当事者の復学について

5 支援ネットワークの構築

次の機関へ子どもの高次脳機能障がいへの理解と支援の協力を求めた。

機関名
北海道特別教育支援センター
北海道拓北養護学校
市立札幌病院静療院
札幌市障害者相談支援事業所 障がい者相談支援センター夢民
居宅介護事業所 ひなた
居宅介護事業所 カラーズ
生活介護事業所 ゆ〜もあ
北海道富良野保健所
南富良野高校
南富良野町保健福祉課
北海道苫小牧保健所
北海道紋別保健所
網走脳神経外科病院
北海道帯広保健所
札幌市教育センター
旭川市障害福祉課
旭川市障害者総合相談支援センター
旭川児童相談所
諏訪の杜病院

6 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

実施日時	関係機関名	支援状況
10月4日	介護事業所 ひなた	家族の学習会講師を紹介
12月7日	帯広保健所	事例検討会の事例を紹介

7 その他

学齢期の家族会を開催	札幌にて学齢期の家族会を開催(5月22日) 参加・家族7人、支援機関1人、託児スタッフ3人、託児7人
家族会・学習会を開催	「障害のある子の思春期に向けて」というテーマで学習会を開催 (9月11日)講師・札幌市教育センター後藤大輔氏 参加・家族10人、支援機関5人
学齢期の家族会を開催	帯広にて学齢期の家族会を開催(11月21日) 参加・家族5人 支援機関4人
子どもの高次脳機能障害について講義	北星学園大学社会福祉学部にて 「子どもの高次脳機能障害の支援」について講義(12月6日)
連携を広げる教育福祉フォーラムに参加	札幌圏肢体不自由養護学校ネットワーク主催のフォーラムに参加 (11月19日)講話と意見交流

資料 4 : 授産（小規模）施設利用支援事業

平成 22 年度授産（小規模）施設利用支援プログラム実施報告書

— 平成 22 年 12 月 31 日現在 —

特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1 支援プログラムの実施状況

(1) クラブハウスコロポックル

施設利用支援

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
利用者数	29	29	29	30	29	29	30	30	29
延べ人数	333	289	339	342	289	334	339	319	265
1 日平均	16.7	15.2	15.4	16.3	16.1	15.9	16.1	16.0	16.6

(2) コロポックルレディース

施設利用支援

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
利用者数	15	17	21	19	20	21	19	20	20
延べ人数	133	133	169	150	135	153	125	177	152
1 日平均	6.7	6.7	8.5	7.5	6.8	7.7	6.3	8.9	7.6

2 支援事例の支援計画の作成と評価

(1) クラブハウスコロポックル

作成実績	利用者 20 名に対し、1～2 回の家族面談を実施、支援計画を立案
評価内容	約 6 ヶ月毎に本人・家族が 10 段階評価、その他随時状況を確認。

(2) コロポックルレディース

作成実績	利用者 13 名に対し、支援計画を立案。
評価内容	本人・家族と随時状況を確認。

3 支援調整・会議の開催

(1) 法人内担当者会議の開催（クラブハウスコロポックル・コロポックルレディース共同）

開催日	開催場所	参加者数	内容
22.4.22	クラブハウスコロポックル	9	共通ケース会議
22.5.20	クラブハウスコロポックル	9	共通ケース会議
22.6.23	クラブハウスコロポックル	8	共通ケース会議
22.7.22	クラブハウスコロポックル	9	共通ケース会議
22.8.26	クラブハウスコロポックル	9	共通ケース会議
22.9.27	クラブハウスコロポックル	10	共通ケース会議
22.10.28	クラブハウスコロポックル	6	共通ケース会議
22.11.25	クラブハウスコロポックル	10	共通ケース会議
22.12.22	クラブハウスコロポックル	9	共通ケース会議

(2) 対外機関との支援調整

①クラブハウスコロポックル

開催日	開催場所	参加者数	内容
22.4.13	クラブハウスコロポックル	3	K.M.氏の事業所変更について。在住地域での日中活動の場の開拓に向けた、相談支援事業所相談員との打ち合わせ
22.6.22	クラブハウスコロポックル	4	M.S.氏のグループホーム担当職員との今後の生活及び日中活動に関する打ち合わせ
22.10.25	北海道大学病院 リハビリテーション科	3	H.H.氏の身体障害者手帳取得希望に関する診察の同席

②コロポックルレディース

開催日	開催場所	参加者数	内容
22.5.24	北海道大学病院 リハビリテーション科	6	E.O.氏の今後の生活設計に関する打ち合わせ
22.7.14	コロポックルレディース	3	Y.A.氏の当事業所における活動内容に関する、相談支援事業所相談員との打ち合わせ
22.11.15	コロポックルレディース	3	Y.A.氏の主要事業所の変更について

(3) 家族、当事者に対する支援調整等実績

①クラブハウスコロポックル

家族との連絡調整	家族面談：21回（2・（1）のとおり） 電話連絡：随時
当事者との面談	随時

②コロポックルレディース

家族との連絡調整	家族面談：3回
当事者との面談	随時

4 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

(1) クラブハウスコロポックル

実施日	関係機関名	情報交換内容等
22.4.21	岩見沢保健所	K.S.氏への保健師による家庭訪問実施の報告
22.7.21	萬田記念病院	A.A.氏の糖尿病の状況の確認、及び、危機感の無さや能力に応じた健康管理の方法について
22.7.27	第2よろこびの家（就労B）	M.S.氏の施設の並行利用に際して、両施設の支援内容及び役割の確認
22.9.22	岩見沢保健所	K.S.氏への保健師による家庭訪問実施の報告、及び居住地域の日中活動系事業所の紹介について
22.9.27	第2よろこびの家（就労B）	M.S.氏の当該当事者の施設利用に対する気移りや不安定な態度に対する、対応及び方向性の統一
22.10.13	岩見沢保健所	K.S.氏の居住地域の日中活動系事業所見学後の報告
22.11.11	岩見沢保健所	K.S.氏への保健師による家庭訪問実施の報告。利用予定の地域の事業所宛のケース概要報告書の提出

(2) コロポックルレディース

実施日	関係機関名	情報交換内容等
22.4.13	第2地域包括支援センター	E.C.氏の状況確認及び事業所利用の意向の確認
22.11.5	北海道大学 リハビリテーション科	H.A.氏の検査結果報告及び、日中活動状況の情報共有

5 支援ネットワークの構築（今年度の成果）

当事業所は、設立時より高次脳機能障害者への支援を掲げ活動してきて、幸いに関係諸機関において認知されつつある。反面、当事業所につながった利用者の中には、地理的に通所が容易でなく必ずしも最適とはいえない利用者があることも確かである。特に意欲が低い、動作が緩慢、易疲労、比較的高齢である、といった症状の方となると、尚、居住地域に活動の場を探すことが重要となる。

今年度は、当初クラブハウスコロポックルを利用されていた50歳代の男性の日中活動系の事業所を居住地域に求める過程から、相談支援事業所（相談室ベガ）との情報交換や当該当事者の受入口となった就労継続支援B型事業所（ハンド&ハンド）、さらにその法人が運営する事業所（地域活動支援センター等）を巻き込んでの高次脳機能障害者支援の学習会の開催へと発展させることができた。その後、少数ではあるが相談支援事業所からの問い合わせにつながっている。

また、岩見沢市から通っている利用者について、担当の保健師が中心となった地域の日中活動系事業所の開拓に、ケースを通じて関わられたことで保健所との関係が強化され、今後、“高次脳機能障害＝コロポックル”をイメージして当事業所につながる遠方の当事者があった場合には、この関係性が有効に働くものと思われる。

6 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

実施日	関係機関名	支援状況
22.8.3	NPO法人はるな会が運営する5事業所（就労継続支援B型・地域活動支援センター・共同住居） 相談室ベガ	高次脳機能障害者の施設支援に関する学習会及び意見交換会の開催
22.8.27	岩見沢保健所	岩見沢保健所が主催する講演会に、施設支援に関する講師の派遣

7 その他

高次脳機能障害者の受け入れをしている肢体不自由者更生施設大滝わらしべ園において、高次脳機能障害支援の学習会及び意見交換会を開催。（22.11.3）

平成 22 年度 高次脳機能障害支援事業 在宅生活支援事業実施報告書

特定非営利活動法人コロポックルさっぽろ

1. 実施状況及び件数と内容

(1) 相談支援：平成 22 年 4 月～12 月末まで、就学支援の相談も含む

電話相談	メール・手紙	来所相談	同行支援	家庭訪問	その他	合計
224	75	131	4	3	3	440

相談支援の対象は、当事者・家族、医療機関の相談員・リハビリスタッフ、保健師、区役所職員、相談支援事業所スタッフ、など様々な職種である。

相談内容も様々であり、退院後の在宅生活に向けての相談、適した通所施設の相談、年金・手帳の申請に関する相談、交通事故の訴訟に関する相談、などが中心である。

(2) 家族への支援

家族を対象とした学習会	
4月9日	富山の当事者・家族の生活についてのビデオ鑑賞 学習会についてのアンケート調査を実施
5月14日	高次脳機能障害と法律、弁護士との付き合い方 (村松弁護士による講演)
7月9日	家族のための体験交流会
9月11日	国民年金制度と障害年金について (札幌市保険福祉局 保険年金課 職員2名による講演)
11月12日	医療ソーシャルワーカーからみた高次脳機能障害者の持つ問題の対応の仕方 (札幌麻生脳神経外科病院 医療生活相談室室長 星野氏による講演)
妻の会	
5月16日、7月11日、9月12日、10月30・31日、11月21日に実施。 合計5回行い、同じ立場である家族同士が交流した。	

(3) 教育・啓発事業

5～6月	札幌国際大学実習生受け入れ
7月10日	長野 高次脳機能障害専門セミナー講師 「家族支援の重要性について」
8～10月	支援者養成実践講座（講師：帝京平成大学 臨床心理士 中島 恵子氏）
8月3日	札幌相談会
8月11日	専門学校 日本福祉学院講義での講師 「家族の役割について」
8月27日	岩見沢保健所研修会講師 「高次脳機能障害者への支援～地域支援者に望むこと」
8月28日	北海道看護協会研修会講師 「家族支援の重要性について」 「高次脳機能障害者に対する地域生活支援」
9月13～17日	北海道大学医学部保健学科 作業療法学専攻 実習生受け入れ
9月17日	千歳保健所相談会、体験談発表
10月12日	苫小牧保健所研修会講師 「体験談発表、家族会の重要性について」
10月24日	福島 高次脳機能障害リハビリテーション講習会講師 「高次脳機能障害における家族の役割」
10月～11月	札幌社会福祉専門学校実習生受け入れ
10月29日	岩見沢保健所研修会講師（体験談発表）
11月5日	駿河台日本大学病院研修会講師派遣（東京） 「家族支援の重要性について」
11月6日	名寄保健所研修会講師（道北支部）
11月3日	大滝わらしべ園研修会講師 「家族支援の重要性について」
12月17日	東北福祉大学実習生受け入れ

(4) 今後の予定

1月14日	家族学習会 講師：中村記念病院 言語聴覚士 内容：当事者との上手なコミュニケーションのとり方
1月21日	岩見沢保健所研修会講師
1月31～2月4日	札幌医科大学作業療法学専攻実習生受け入れ

2月18日	家族学習会（家族のための体験交流会）
3月5～6日	日胆地区ソーシャルワーカー協会研修会講師
3月11日	家族学習会（作業所の活動報告）

（5）生活版ジョブコーチ支援の実施

高次脳機能障害者に特化した自立生活訓練の研究事業として、2事例に対して生活版ジョブコーチの支援を実施してきた。

①U氏（40代男性、両親と同居、コロポックル作業所に通所中）

支援の目的：

両親の高齢化に伴い、将来の日常生活を安定させるために、在宅における家事等をヘルパーを利用して訓練的に自立させる。

支援の内容：

本人が洗濯という行為を自立して行うことができるよう、手順書を作成し、自宅に貼りだす。訪問するヘルパーには、生活版ジョブコーチ支援の説明、U氏に対する支援方法の伝達などを行う。ヘルパーとは支援記録のやりとりをし、支援の方向性について適宜相談を行う。

支援回数：平成22年4月1日～12月末時点

ヘルパーの訪問回数～30回（平成22年8月より週2回、1回につき1時間～1時間半の支援）

生活版ジョブコーチによる訪問回数～11回

生活版ジョブコーチによる連絡調整～9回

支援結果：

現在も支援継続中ではあるが、本人とヘルパーの間に良好な支援関係ができ、当初に比べるとスムーズに洗濯行為がなされている。

②M氏（50代男性、独居生活、就労中）

詳細は、別紙の「事例検討」状況記入シートに記載。

2. 支援事例の支援計画作成と評価

作成実績	生活版ジョブコーチ支援対象者に対する計画書 2 事例、その他在宅生活をしている当事者・家族に対する計画書 3 事例、合計 5 事例作成した。
評価内容	<p>生活版ジョブコーチ支援対象者については、2 事例とも支援計画に沿って支援継続中の状況である。</p> <p>支援機関とのつながりがなく、キーパーソンの家族が他界したことにより、支援機関の協力を必要としている本人・家族に対する支援計画。本人の希望に沿うような日中活動場所の機関とつながりと持つこと、本人の障害に配慮しながら生活全般を相談できるような支援機関との関係を持つこと、などを中心に支援を継続中である。</p> <p>自力での就職活動が上手くいかないうえに、日中には近隣住民とのトラブルも多くある本人に対する支援計画。本人にかかわっている民生委員とも連携しながら、当事業所を利用し安定した生活を送るということを目的とした支援を開始している。</p> <p>本人は支援を必要としていないが、家族は支援を求めている事例に対する支援計画。家族から地域の保健所へ SOS を出してもらい、本人に対する支援のきっかけを模索中の状況。今後も保健所と連携しながら支援を継続中である。</p>

3. 支援調整・会議の開催

開催日時	開催場所	参加者数	内容
4月16日	恵庭市保健センター	6名	金銭管理の状況、生活版 J C の導入
5月13日	桑園病院	4名	当事者への対応方法について
5月15日	訪問介護ステーション ゆうび(千歳市)	3名	生活版 J C 支援の説明
5月24日	恵庭市保健センター	5名	金銭管理の状況、 生活版 J C の支援者役割について
6月15日	恵庭市保健センター	6名	金銭管理の状況、 生活版 J C 支援の進捗状況について
7月16日	恵庭市保健センター	5名	生活版 J C と日常生活自立支援事業 の活用について 金銭管理状況の問題点の整理 各支援者での情報共有
11月9日	桑園病院	4名	当事者への対応方法について
11月18日	コロポックル	5名	現在の生活状況の確認、 今後の生活についての問題整理

4. 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

関係機関の種類	情報交換の内容
医療機関	退院後の通所施設としての情報交換、検査入院・各種診断書等の依頼、入所・入居施設の情報紹介、転院先の情報紹介
保健所	地域に住んでいる当事者・家族への相談に対する助言、活用できる社会資源の情報収集など
相談支援事業所 地域生活支援センター	日中活動の通所施設としての情報提供、活用できる社会資源の情報収集など
弁護士事務所	交通事故の訴訟問題に関する情報交換
市内各区役所の障害福祉課	地域に住んでいる当事者・家族への相談に対する助言、活用できる社会資源の情報提供など

5. 支援ネットワークの構築

- ・電話相談などの各種相談を通して、様々な医療機関、相談支援事業所、保健所などつながることができ、別の相談内容にも対応してくれるケースが多くなった。
- ・保健所で行われる研修会講師を行うことで、地域の保健師や支援者とコミュニケーションをとる機会も多くなり、様々な相談支援に活用できる社会資源が広がった。
- ・8月3日に行われた札幌相談会の案内チラシを市内の医療機関（各区10カ所程度、精神科・脳外科・リハビリ科を中心に）に送付したことで、高次脳機能障害に関する相談機関としての周知ができたと同時に、医療機関からの電話相談がより多くなった。
- ・生活版JICの支援・支援者会議を通して、保健所やヘルパー事業所、社会福祉協議会などとのつながりができた。
- ・大滝村わらしべ園との勉強会では、在宅生活が困難な高次脳機能障害者に対する施設生活での支援を具体的に検討することができ、現在関わっている当事者・家族の将来的な支援方法の一つとして入所施設という選択肢が現実的に考えられるようになった。

6. 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

関係機関名	支援状況
千歳保健所	当事者への対応方法についての助言
南富良野 北の峰病院	在宅生活者の日中活動場所に関する相談、新たな社会資源を作るための助言

7. その他（まとめ・課題など）

- (1) 家族に対する支援の重要性

今年度行われた地域の保健所研修会での講師派遣やその他の講演会における講師派遣においては、「家族の体験談」や「家族支援の重要性」、「家族の役割」といったテーマを依頼されることが多く、依然として地域に住む家族の方たちが支援の手を求めていることが窺えた。このことは、地域の保健所などが相談を受けていく中で、家族に対する支援の重要性を改めて感じているということでもある。ただ、家族に対する支援から始まり、その支援を当事者にまで行き届くようにするためには、支援のタイミングやきっかけを見つけにくかったり、その他の支援機関の協力体制が必要だったり、なかなかスムーズに結びつかない場合もあり、支援ネットワーク構築の難しさも改めて感じた。

(2) 当事者・家族の高齢化に対する在宅生活支援の在り方

電話相談などにおいて、当事者・家族共に高齢の場合が多く、そういったケースに適する社会資源の乏しさについて考えることがあったが、既存の社会資源に結びつけるにしても、当事者・家族が拒否的な態度を示すことが多い。当事者・家族が納得のいく支援につながるよう、適切な社会資源を検討するためには、信頼できる支援者との出会いが重要だが、そのためにも支援機関同士のネットワークをさらに強化していくことが求められていると感じた。また、現状では家族が当事者を見守られる状態にあっても、将来的な親亡き後の生活を心配する方も増えてきており、生活全体を支援してくれる体制も今後は検討する必要があるだろう。そういった意味では、今年度実施した大滝村わらしべ園での勉強会において、施設生活支援の実態を見聞きできたことは有意義であったと思われる。そして、支援ネットワークの構築という点からすると、グループホームなどの入所施設とも事例を通じてつながりを持ち、これからの相談に対応していくことが求められていると思われる。

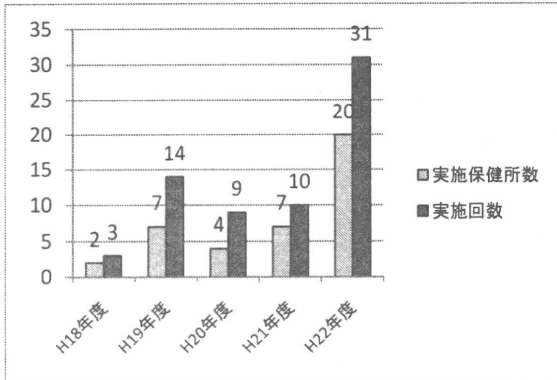
(3) 既存の在宅生活支援サービスの活用について

現在、高次脳機能障害の方がホームヘルプサービスなどを利用しているケースは限られており、身体障害の後遺症が重たい場合や、介護保険が適用されている場合、または両親とは同居しておらず独居生活を送っている場合などは、ホームヘルプサービスを活用していることがある。高次脳機能障害の場合は、障害特性などからホームヘルプサービスの利用に該当しないことが多く、なかなか既存のサービスを活用できない状況であるということが、生活版ジョブコーチ支援を実施する中で明らかになった。家族が本人の障害を学び・理解した上でかかわるという支援も必要ではあるが、時には家族以外の第三者からの助言によって在宅生活を充実したものにするという支援も大切であると考えている。そのためには、従来のヘルパーサービスとは異なる視点を持った高次脳機能障害者に特化した在宅生活支援サービスが考えられ、現在継続支援中である生活版ジョブコーチ支援を実践していく中で、この点については課題として深めていきたい。

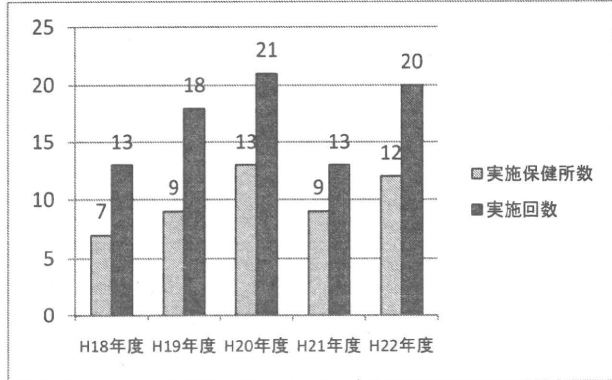
道立保健所における、高次脳機能障がい者支援事業
「普及啓発相談支援事業」の実施状況(H18年度～H22年度)

平成18年度から平成22年度の5年間の道保健所における「普及啓発相談支援事業」の実施状況を
下図に整理した。(22年度は研修・会議等は1～3月は予定数、訪問・相談等は12月末の実績で計上している。)

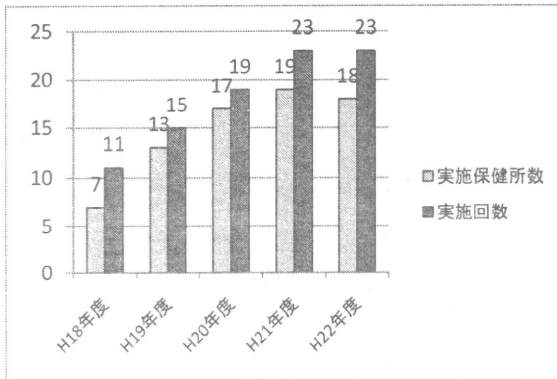
1 ネットワーク会議の実施状況



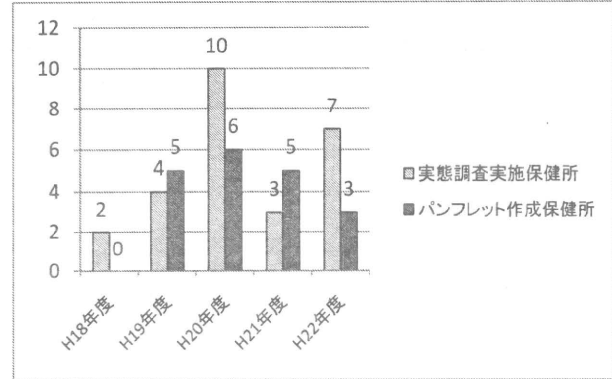
2 事例検討会の実施状況



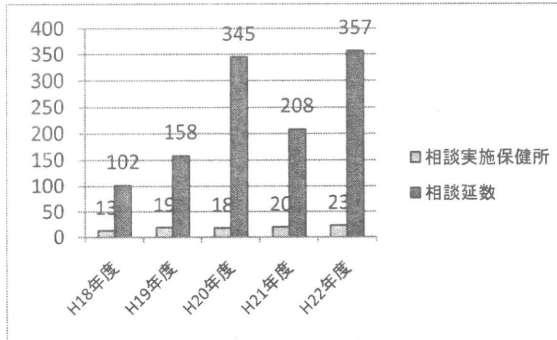
3 講演会及び研修会実施状況



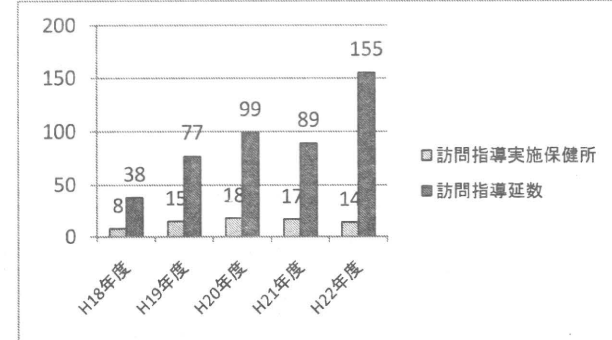
4 実態調査、パンフレット等の作成



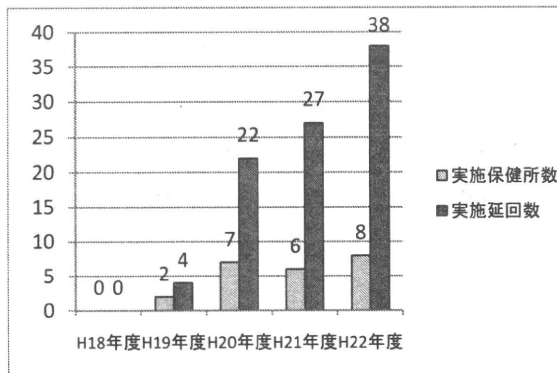
5 相談実施状況



6 訪問指導実施状況



7 「集い」等の開催状況



道立保健所 平成22年度高次脳機能障害者支援事業実施状況 (平成22年12月末実績、年度未見込み)

保健所別	普及啓発	関係職員研修	連携会議	事例検討	相談	訪問指導	集団指導	他
A	①8/27、39人 ②10/29、46人、③1/28予定	①5/20、15人 ②7/20、14人 ③10/14、10人 ④2/3予定	左記ネットワーク会議と同時間、3回実施(15人、14人、10人)	実11/延31件	23人、96件 (②新規12人)	当事者つどい4回 実10人延20人 家族のつどい4回 実12人延21人	支援に関する調査8ヶ所へ実施	
B	①10/22、66人	①6/18、6人	①7/21、10人②7/30、10人③12/28、10人	実3/延10件	6人、6件 (②新規5人)	家族交流会1月予定		
C		①2/8予定			1人、1件			
D					3人、3件 (②新規2人)			
E	①9/17、49人	①7/20千歳市、4人 ②7/20恵庭市、4人	①2月予定	実4/延5件	4人、9件 (専門相談1回、9件)	当事者交流会2回実6人延8人 家族交流会2回実9人延10人		
F			①2~3月予定	実2/延9件	3人、7件 (②新規3人)		地元精神科医師の協力を得て、入新中の当事者に退院後の生活課題についてインタビュー実施した。今後訪問支援予定。	
G				実1/延2件			医療機関や市町等の窓口にはタブレット設置 実数調査は1月~3月に実施予定	
H		①11/12、51人	①1~2月予定	実1/延1件	2人、3件 (②新規2人)	当事者集い11回予定 家族交流会2回実12人延17人	各機関に支援の実態や課題等の聞き取り調査を実施	
I	①10/12、18人	①3月予定	①左記会議と同時間、18人	実9/延13件	13人、23件 (②新規4人)	当事者会9回実16人延45人 家族つどい4回実9人延17人		
J		①3月予定			1人、1件 (②新規1人)		管内市町主幹課長・係長会議で説明、リーフレット作成	
K			①3月予定		2人、2件		管内市町主幹課長・係長会議で説明、HP掲載	
L	①8/9、96人 ②10/9、177人	①7/14、16人 ②3月予定		実4/延5件	2人、15件 (②新規2人、 専門相談会4回2件)		HP掲載、リーフレット、所内学習会、関係専門職団体研修講師派遣	
M		①12/3、38人		実1/延1件	2人、4件 (②新規2人、 専門相談会1回1件)		自立支援医療申請書の把握・分析。病院PSWと情報交換し対象者の把握とアプローチ実施	
N		①2月下旬予定			1人、1件	家族交流会1回		
O	①10/16、143人 (脳外障りハ講習会)	①4/19 ②6/18 ③9/14 ④11/12			5人、8件 (②新規2人、 専門相談会1回3件)		市町村等相談支援機関、医療機関他支援機関に実態調査や聞き取り調査を実施	
P	①11/6、114人	①5/20、14人 ②9/9、11人 ③12/8、10人	①7/13、3人 ②12/7、4人 ③10/28、6人	実4/延16人	6人、10件 (②新規5人)		病院の専門リハ集団指導への結びつけ、障害者組織等育成	
Q	①5/7、70名 (高等学校生徒、保護者、教師等)	①7/26、28人	①左記会議に合わせて実施、19人	実3/延7件	8人、94件 (②新規6人、 専門相談会1回2件)		地元FMラジオで個別相談PRや啓発実施	
R		①2~3月予定		実1/延1人	1人、1件 (②新規1人)			
S				実1/延1人		家族の集い	実態調査の実施	
T	①1/15予定 (北網脳外障りハ講習会と共催)	①2/17			3人、6件 (②新規3人)		実態調査の実施、患者等組織支援	
U		①6/25、55人			3人、7件 (②新規2人)		実態調査の実施、患者等組織支援	
V		①9/7、53人	①6/29、17人 ②3/8	実8/延18人	8人、9件 (②新規3人)	当事者6回延20名、家族1回 (2月予定)	実態調査の実施、HPによる啓発普及	
W			①12/1、29人	実3/延20人	10人、40件 (②新規7人)		支援者向け相談手引き書作成	
X	①10/30、120人	①1/24予定 (左記研修と同時間)	①6/29、4人	実1/延5人	2人、10件 (②新規2人)		会の支援、脳外障りハ講演会支援	
Y		①7/23 (左記研修と同時間)			1人、1件 (②新規1人)		地区組織主催事業支援2回	
Z								
概要	26保健所のうち18保健所で、一般住民や支援関係者に対し、啓発普及の講演や研修を実施している。 北網圏域では複数の保健所で合同開催した。	連携会議を実施しているのは20ヶ所、事例検討会実施は12ヶ所。会議あるいは事例検討会いずれかを実施しているのは22ヶ所。	相談は23保健所で実110人延357件実施、22年度新たに65人の対象を把握支援している。訪問指導は14保健所で61人延155件 (12月未まで) を実施	当事者や家族に対し、小集団の形で主催支援を実施しているのは8ヶ所	当事者6回延20名、家族1回 (2月予定)	当事者や家族に対し、小集団の形で主催支援を実施しているのは8ヶ所	昨年年度からの継続も含め、実態調査実施は7ヶ所、パンフレット等作成は3ヶ所。関係機関への聞き取り調査を実施しているところが目立つ。	